

畠澤

次右邊安信重久按すゝあつて麓山小松本助

重光しげみつ子むね行ゆき家いえ藩はん出羽でわ生なま不ふ寛かん

藩はん先祖安信頼良よしのり四男よつだんな境さかい陣ぢん師し官くわん

照出羽國置賜郡小松こまつ殿のり任にん任にん

あつて東邊小松出羽でわ正任ただしん陸奥國りくお和賀郡わが志し

澤尾さわお任にん任にん後ご正任ただしん男おとこ二ふた廓くわく重ちか

任官照にんくわんあつ不ふ是し重久ちかひさ十じゅう八はち代だい

の祖たるは是よりして頼良の子孫
よりして或は小松と稱し或は尾澤
成和して陸奥國中より出羽國に
居住り寛永藩 家譜祖父は小松本工助重
長といひて伊達左京大夫晴宗に
属して天文十八年八月十日に北に
法名と廓念といひ父重光のとし
より伊達亮といひて伊達晴宗に

に其男左京大夫輝宗に属して後
中野新田等北に居り輝宗
より孫として子楯と及ひて重光
利成と入て小松殿と退ると
はけ時新田の包と愛して輝宗
より孫として中野の誠後國に
居り其の長尾謙信に從ひ重光
國に堀門城とて守りしけり

永祿二年十月九日輝宗より
園中より懇入願して遂く自教
に法名成通親といふ重久を
先小松本工助といふ九歳の時義
孝の没落して僕従ふべき事
らに依くの葬地をふ妙心院
遁すといふ叙入に借順的法衣法
衣といふ款を隠しけむ八年

して危難成免うは後剃髮して
順巴といふにわらふく及んで父の
能くいふこととあるにみつゝ還俗
をいふこと適きら二小松の城と島山
義継より属に寛永天正十二年十月
義継仔達輝宗と小満城にて會
盟の時重久離れ頼氏つき志らふ
しといふ身成慶して僮僕の姿に

たつと義継の後々従ふべくて盟破
て義継輝宗城生捕て走り
つ小伴達政宗是茂逐々高岡此後
つとつと義継つとて逐々討つ
寛永藩仔
達日記 け時重久の府と被ふ
つとつと島山家滅亡つとつと重久
をよさつとつと會津つとつとつと
名盛重の許つとつとつと同十六年六月

必系會津城攻討摺上原つとて合戦
の時重久は陣つとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつと
重久又よさつとつとつとつと
寛永
藩 是より家稱城思澤
改む藩同十九年
東照宮つとつとつとつとつと

國郡筑那のちちとて来北成賜
小文祿元年肥前國名護を法陣
し供事し後園原大板等此後小
と後に入事し元和四年四月廿日六十
四歳に死に法名成休院と
し其子木工助定幸ハ人初くし
とて長六郎とて入費ハ法訪初
宗古造の定右子とて重久の養子

と初る元和元年

東照宮にみえ事し是年大板の
後記に六松平右造大守西綱の
自ら屬して供事し同二年

台徳院にみえ事し大番

列寛永後遺跡家寛永

二年法皇の戎具として法皇を
時定幸り戎備嚴整初る戎賞を

く給ふ上野國藤野郡のこもりそ
き地蔵加へら玉寛永十丁米地二百九十
石餘現米四十石此縁家同十八年
よりし馬蔵預けら玉寛永
十月馬の事蔵幸いりて陸奥國
より赴き後同國及び武藏國府中より
赴くこと志いりたる家定幸よりと
より馬蔵好みて其淵に振練り

の林道春の物に讀書蔵学の
年蔵起て文に清く撰述の馬
書今於世に傳へ又正保年中群書
蔵探りて家説蔵も名考りて
騾其初色圖説蔵著述又集山其
子之馬重治陸奥よりし
よりし馬蔵よりし寛永十三年
よりし馬蔵よりし家定幸よりし

大猷院殿一拜謁一寛永月十六

年大猷日記後父寛永之

之死一多一男次一之

家嫡一家藩○子孫一之

家絶山

久能

氏部一輔宗朝傳二帝在皇

訂誤 慶長元年

台徳院教活一の一也一孫一供一

考異 慶長元年一の一條一 是年一十二月一京一在一

二宅一活一次一之一傳一其一恨一あ一く一彼一討一果

一具一身一死一云一 傳一其一恨一あ一く一正一次